

文化論	1年・後期	1単位	教授 中村 光一
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31220141

1. 授業のねらい・概要

日本における様々な時代が培ってきた文化を概観することを通じて、鋭敏な国際感覚を持った看護職の養成の一助となることを目指す。もとより8回の講義の中で日本の「文化」を網羅的に述べることは困難であり、トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

2. 学修の到達目標

1. ケアサービス提供者として、日本文化への理解を深める。
2. 培われた文化が人々にどのような影響を及ぼしたかを理解する。

3. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解をより深めるため、パワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

4. 授業計画（講義）

1. 縄文と弥生	5. 火縄銃 ―技術の移入
2. 古墳	6. 能と歌舞伎 ―貴人と庶民の芸能
3. 神社と寺院 ―固有と外来	7. 浮世絵 ―ジャポニスムへの影響
4. 大仏造立 ―8世紀の国家プロジェクト	8. 天ぷら・蕎麦・寿司 ―「和食」の成立

5. 成績評価の方法・基準

試験の結果（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

6. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義中にプリントを配付する。配付物の試験持ち込みは不可であるため、ノートは別に用意して講義を受講すること。また、参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学習には、2時間程度が必要である。

8. 受講上の留意事項

本講義では、日本史上の人物、また地名など固有名詞がしばしば現れることになる。これらは高校程度の「地歴」分野の知識で十分対応できるものであるが、それらを十分咀嚼していない学生は、授業ごとに復習することで、知識を確実なものとしておいてほしい。

9. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。